

## 2節 放送番組の制作

### 報道・スポーツ番組

#### I. 取材・制作・放送システム

08年6月に発生した岩手・宮城内陸地震では緊急地震速報が気象庁より発表され、NHKが整備した自動速報システムにより迅速に伝えることができた。NHKが開発や整備を進めてきた国内外のさまざまなシステムや設備が、災害報道や選挙報道を支え、視聴者の負託に応える大きな力となった。

##### 1. ニュース取材・制作設備

ニュースの取材伝送・制作設備は、老朽更新の時期を考慮しながら順次ハイビジョン化を進めている。08年度は手話ニューススタジオをハイビジョン化したのを始め、各種制作設備のハイビジョン化を引き続き実施した。総合テレビや各放送局のニュース編集設備はビデオテープを用いた編集が中心であるが、報道、スポーツの制作現場でもテープレス時代への足がかりとしてノンリニア編集設備を本部、拠点局の報道制作現場の一部へ導入した。

海外総支局については、全国各地の伝送事情やデジタル化・ハイビジョン化の高精度・高品質化の進捗具合を考慮しながら、ハイビジョン整備を進めている。08年度末現在、海外21の取材拠点からハイビジョン伝送が可能である。また、総支局内のスタジオ設備を中心に若干の変更整備をすることで、演出の対応幅を広くし国際放送への発信力強化を行った。

映像・音声伝送が容易でない海外地域取材のため、衛星電話回線やインターネット回線を利用した伝送機材を機能改善し整備した。TV電話技術、データ圧縮技術を用いた機材により、生中継や映像、音声のファイル伝送を行い、08年5月の中国四川大地震をはじめとする災害報道や事件・事故の緊急報道において、映像伝送に大きく貢献した。海外からの映像、音声ファイル伝送の機会が増加しており、08年度末に本部のファイル受信設備を更新し、多数の伝送に対応できるよう受信機能の向上及びファイル再生機能の向上などの改善を実施した。

インターネットニュース制作設備についても老

朽更新を実施した。ニュースの放送映像を、項目ごとに自動的に切り出す機能を導入して制作作業を効率化した。設備更新と同時にニュースホームページのデザインや機能を刷新し、さらに携帯3キャリア公式サイトへのニュースの掲載や、ニュース速報、地震・津波速報のインターネット、携帯への表示を開始した。

##### 2. 緊急報道設備

気象庁が防災情報として発表する緊急地震速報を迅速かつ確実に視聴者に届けるため、本部作画装置の強化を行った。

気象庁が発表する地震・津波情報は、地上専用データ回線を通じてNHKで受信して放送に活用しているが、大規模震災などによる地上専用データ回線不通時も、気象庁からの地震・津波情報を確実に視聴者に届けるため、衛星配信による地震・津波情報受信機能を東京と大阪に整備した。

CS伝送設備においては、08年に通信衛星で利用できる小型IP伝送装置を新たに導入し、ハイビジョン伝送も可能な設備として整備した。小型軽量である機動性を活かし、08年6月14日に発生した、岩手・宮城内陸地震では震源に近い中継場所から被災状況を伝えた。

##### 3. 報道情報システム

報道情報システムは、ニュース原稿の作成から制作、送出までを担うNHKの報道を支える基幹システムで、多くのホストコンピューターとサーバー群を中核とした大規模なネットワークシステムである。このうち総合テレビのニュース項目や演出、リソースなどデータを管理し、送出設備を制御する総合テレビ送出ホストコンピューターの更新を行った。

08年1月のインサイダー取引事件以降、報道情報システムのセキュリティ強化策を実施し、原稿が閲覧可能となる時刻の設定や、機密性の高い原稿への警告表示機能、原稿を参照できる範囲を限定する地域制限機能などを追加した。さらに映像関連の情報にもパスワードがかけられるように改善した。

これらの改善によって、報道情報システムの情報セキュリティの向上を図った。

#### II. 緊急報道

08年度は岩手県と宮城県で震度6強の揺れを観測する岩手・宮城内陸地震が発生したのをはじ

め、岩手県の沿岸北部で震度6弱の地震があったほか、近畿・北陸・東海・関東など各地で局地的な大雨による被害が相次いだ。

いずれの災害に対しても、NHKは公共放送として国民の生命・財産を守る立場から、被害の軽減や復旧に役立つ放送に組織を挙げて取り組み、「正確」「迅速」「わかりやすさ」を基本にした緊急報道を展開した。

## 1. 自然災害

### (1) 地震

08年6月14日に岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード7.2の大きな地震があり、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強の激しい揺れを観測した。この岩手・宮城内陸地震では13人が死亡、09年3月現在、10人が行方不明である。

NHKではまず、発生直後にテレビ・ラジオ12のすべての放送波で、地震の強い揺れが来る前に警戒を呼びかける気象庁の「緊急地震速報」を伝えた。そして、強い揺れを観測すると直ちに通常番組を中断して臨時ニュースを放送した。特に総合テレビでは、翌朝まであわせて18時間余りにわたって全国放送で地震に関する放送を続けた。

また、当日は全国放送だけでなく仙台局や盛岡局でも、被害状況をはじめ生活にかかわるライフラインや交通も含めたきめ細かい情報を、テレビ・ラジオで地元の被災者向けに随時放送した。仙台局では、全国放送の番組放送中に随時テレビ画面を縮小して逆L字型のスペースを設け関連情報をスーパーで流す放送を、発生から2週間継続した。

こうした災害報道にあたっては、発生当日から被災地の岩手県や宮城県内に県外から多くの応援要員・機材を投入した。ヘリコプターによる取材は、最大1日4機の態勢で地震発生から1週間で延べ70時間以上と、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震の際を上回った。また、ポータリンクと呼ばれる小型で可搬のIP衛星通信システムを栗原市の被災地に持ち込み、緊急報道での中継に初めて活用した。ほかにも衛星を使って中継や映像の伝送が可能な車を複数の放送局から被災地に派遣して中継・伝送を行うなど、組織をあげた態勢を敷いた。

7月24日には、岩手県沿岸北部の野田村や青森県八戸市などで震度6強の地震があり、1人が死亡した。「緊急地震速報」に続いて直ちにすべての放送波で臨時ニュースを放送した。

このほか、08年度に震度5弱以上を観測した地

震は、5月8日に茨城県水戸市や栃木県茂木町で震度5弱、7月5日に茨城県日立市で震度5弱、7月8日に鹿児島県与論町で震度5弱。9月11日の北海道十勝沖の地震では新冠町などで震度5弱を観測し、津波注意報が出された。いずれも「緊急地震速報」や特設ニュースで対応した。

また、08年度は海外でも大きな災害が発生した。5月12日に中国・内陸部の四川省でマグニチュード8.0と推定される巨大地震が起き、死者・行方不明者は8万7,000人以上にのぼった。NHKは、発生直後に「海外緊急展開チーム」を現地に派遣。震源地付近の激しい被害の様子や日本の国際緊急援助隊の活動などを精力的に取材し、現地から数多くの中継を行うなどして、被災地の状況を詳しく伝えた。

### (2) 相次いだ局地的な大雨

08年の夏は、1時間に100ミリを超える猛烈な雨が短い時間にごく狭い範囲に降るような、局地的な大雨が全国各地で相次いだ。

7月28日には石川県金沢市で記録的な大雨となって、市の中心部を流れる浅野川がはんらんし、住宅約2,000棟が浸水被害を受けた。

同日、兵庫県神戸市の都賀川では、大雨による急激な川の増水で、子どもを含む5人が流されて死亡。

また8月5日には東京・豊島区で、激しい雨による下水道管内の急な増水で、中にいた作業員5人が流されて死亡した。

さらに、8月26日から31日にかけて、愛知県岡崎市で1時間に147ミリ、千葉県我孫子市で105ミリの猛烈な雨を観測するなど、東海や関東を中心に各地で記録的な大雨となった。この大雨で2人が死亡、住宅の浸水などの被害は四国から東北に及び、気象庁は「平成20年8月末豪雨」と命名した。

これらの局地的な大雨が相次ぐ中、NHKでは、全国放送や地域放送で、定時ニュースだけでなく随時、特設ニュース枠を編成。テレビ画面を縮小し逆L字型のスペースにスーパーを流すなどして、最新の大雨情報や避難の状況、交通への影響などをきめ細かく伝えた。また局地的な大雨をもたらす気象条件の分析や注意点などの詳しい解説も加えて、繰り返し注意を呼びかけた。

### (3) 台風 上陸ゼロ

08年度は、日本に上陸した台風はゼロ。台風の上陸がなかったのは平成12年以來のことで、気象庁が台風の統計を取り始めた昭和26年以降、4回目。

しかし、9月には、台風13号が九州から関東の南岸を東に進んだり、台風15号が九州南部に接近したりするなど、日本に接近した台風は9個あった。

台風の接近に際し、NHKでは、定時ニュースに加えて、終夜を含む特設ニュースを編成。最新の台風情報や被害の状況などを伝えた。

## 2. 映像取材体制

### (1) 航空取材の基地・機体の体制

航空取材を緊急報道の柱と位置づけ、札幌・仙台・東京・静岡・新潟・名古屋・大阪・広島・福岡・鹿児島・沖縄の11基地に12機を配備し、これに機体の検査や整備を行うときにバックアップをする全国予備機1機を加えた13機体制で、全国の事件事故や災害などの緊急報道に備えている。

しかし、07年12月、検査のため移動中のヘリコプターが静岡県で墜落し運航停止となったため、報道機12機に簡易伝送装置を装備した別途契約機を加えた、暫定的な運用となっている。

### (2) 航空取材の機体ハイビジョン (HV) 化

放送のデジタル化に伴い、ヘリコプターのHV化が順次行われ、06年12月に全国すべてのヘリコプターがHV化された。

### (3) 大地震に備える

東海地震をはじめ東南海・南海地震、宮城県沖地震など想定される大規模地震に備え、ヘリコプターのHV自動追尾エリアの拡充を図るほか、交通網が寸断された遠隔地へ人員や機材を輸送する体制の整備を進めている。

## Ⅲ. 選挙システム

選挙システムは、全国をネットワークで結んで出口調査や最新の開票データなどを集計し、これを基礎に当確判定や放送・インターネットなどの開票速報画面の作成などを行うものである。

最近では、2007年に、候補者情報を一元管理する候補者データベースの運用を新たに始めたほか、国政選挙では、インターネットの開票速報でアニメーションの動画表現を可能にするサイトを立ち上げて視覚的に選挙結果の理解が高まるように改善している。また、正確・迅速な当確判定が実施できるよう、システムや判定ソフトの改修を恒常的に進めるとともに、放送画面のわかりやすさを追求するため、ディスプレイのデザインや色使い、顔写真の使い方を改善している。

## Ⅳ. 国際回線による映像伝送

海外からの中継や映像の伝送は、主に通信衛星や光ケーブルなどを使って行われている。

NHKでは、世界で起きた紛争や災害、国際情勢などを伝えるため、膨大な量の映像を、24時間体制で世界中から受信している。

### 1. 随時伝送と定時伝送

海外からの映像伝送は、事件事故、国際会議などのニュースおよび国際的なスポーツイベントなどの際、そのつど、海外と回線をつなぐ「随時伝送」と、海外の放送局が制作したニュース番組を決まった曜日と時間に受信する「定時伝送」とに大別される。

海外報道の充実を求める声やNHK海外総支店の取材体制強化などを背景に、映像伝送の量は年々増加している。

08年度は「随時伝送」と「定時伝送」を合わせた総件数が3万1,230件、07年度と比べて1,006件、約3%増加した。総伝送時間も3万1,532時間と、07年度に比べ1,675時間、約5%の増加となった。

このうち「随時伝送」の件数は、1万5,991件で、全体の51%を占めている。

伝送が増加した理由としては、アメリカ大統領選挙、世界的な金融危機にかかわる各国の対応などに加えて、中国四川省大地震をはじめとした大規模な緊急災害報道、日本人4人が同時受賞した「ノーベル賞」の報道など、重要な国際ニュースが相次いだためである。

「定時伝送」では、アメリカのABCやCNN、イギリスのBBC、フランスのF2などが制作した欧米のニュース番組をはじめ、中国やフィリピン、ベトナムなど、アジア各国のニュース番組も受信している。

特に重要な海外番組の受信としては、北朝鮮の国営放送・KRTをはじめ、イラク問題など、中東情勢を伝える上で欠かせない情報源として、カタールの放送局「アルジャジーラ」の24時間受信を行っている。

06年度からは、世界最大のイスラム国家・インドネシアのニュース番組も受信を開始したほか、07年度からは、南米ブラジルの放送局のニュースも新たに加わり、NHKの国際回線ネットワークで定時伝送している番組は、世界16か国、28の放送機関となった。

「定時伝送」は、1万9,784時間で、総伝送時

間の63%を占めており、1日あたりの平均受信時間は、54.2時間となっている。

## 2. 緊急報道

「随時伝送」の中でも最も重要なのが、緊急報道への対応である。

海外27か所に駐在するNHKの特派員や報道局の取材・中継チームは、世界各地で起きる紛争や事件・災害の現場に展開する。こうした緊急報道では、現場と日本との間を、どのようにつなぐかが課題となる。周辺の放送機関や映像通信社に協力を求めて衛星の伝送施設を借用したり、複数の衛星を組み合わせるなどして、地域の通信事情を考慮しながら、そのつど、伝送路を確保しなければならない。映像信号や映像圧縮装置の違いなどが回線接続を困難にすることが日常的にあり、海外からの映像伝送を専門とするチームが、24時間体制で、難易度の高い回線の接続にも対応し、現場の記者やカメラマンを支援している。

既存の通信基盤がない過疎地域が現場になる時は「フライ・アウェイ」と呼ばれる小型の衛星通信地球局を航空機で持ち込んだり、周辺の地域や国から、衛星通信アンテナを積んだ「SNG (SATELLITE NEWS GATHERING)トラック」と呼ばれる車載型地球局を現地へ走らせることもある。

06年に発生したジャワ島中部の地震、津波被害や08年の中国四川省大地震では、ハイビジョン映像が伝送出来る「フライ・アウェイ」を現地へ持ち込み、被災地の状況を鮮明な映像で世界に伝えた。

また、NHKは、日本のメディアで唯一、イラクのバグダッドに記者とカメラマンが常駐して取材に当たっている。現地の事務所には、生中継や映像素材がハイビジョンで送れる設備が整っており、混迷の続くイラク情勢を逐一伝えている。

## 3. 国際専用ハイビジョン回線

NHKは、膨大な量の映像伝送を円滑かつ確実に行うため、地球を一周する24時間接続のハイビジョン専用回線を配備している。

アメリカと日本を結ぶ光ファイバーの「米日専用回線」は、総延長およそ約2万キロ。ハイビジョンの映像が4本同時に送れるもので、ニューヨークのアメリカ総局、ワシントン支局、ロサンゼルス支局から、どの回線にも接続出来る。

その回線構成は、米国内、太平洋の海底区間とも、異なる経路で二重化されており、片側の回線

が何らかの理由で切断されても、瞬間的に途絶えることなく、もう一方の回線に切り替わる高い機能が備わっている。

日本人選手の活躍するMLBの映像も、全米各地の球場からニューヨークに集められ、米日専用回線で、日本へ送られている。

「欧日専用回線」は、インド洋上の衛星を介し、ユーラシア大陸を横断する形でパリの欧州総局と放送センターの間が24時間接続されており、同時に2回線の伝送が可能となっている。

また、パリとアメリカをハイビジョンで結ぶ「欧米専用回線」が1回線あり、パリからの映像をロサンゼルスで、4回線ある「米日専用回線」のどの回線にも接続出来るようになっている。

欧州地域の映像は、欧日専用回線の東周りルート、欧米専用線経由の米国縦断、西回りルートのどちらでも送れるようになっており、高い運用性と安全性を確保している。

さらに、ロンドン、モスクワ、ベルリン、エルサレムの各支局は、パリとハイビジョン専用回線で24時間接続されているほか、パリの欧州総局は、衛星の電波を受信するアンテナ8基を備えた「テレポート」を有しており、欧州・中東・アフリカ地域からの映像を中継して、欧日専用回線や欧米専用回線、米日専用回線経由で東京の放送センターとを結ぶ分岐点、いわゆる「ハブ」の役割を果たしている。

このほか、アジア地域では、北京の中国総局、上海支局、バンコクのアジア総局、ソウル支局、マニラ支局、台北支局、ニューデリー支局、イスラマバード支局、シドニー支局からもハイビジョン伝送が可能になっている。この結果、海外からの随時伝送に占めるハイビジョンの割合は、受信総件数の67%に達しており、ニュースのハイビジョン化では、世界の先導役となっている。

## 4. 海外からのIP伝送

近年、国際映像伝送は、デジタル技術の進展を背景に新しい時代に入っている。

その一つが、映像信号をパソコンでファイル化し、公衆インターネット網や超小型の衛星地球局を通じて送る「IP (インターネット・プロトコル)伝送」である。

IP伝送は、放送機関など、テレビの映像伝送施設がない地域からの最も有効で簡便な伝送手段として、その利用が年々増加している。

08年度は、中国四川省大地震の被災地で、主力の伝送路として使われたほか、ソマリア沖で海賊

対策の任務にあたる海上自衛隊の護衛活動の映像を海上から伝送する手段としても活用された。08年度のIP伝送は、1,608件、伝送時間は、199時間に上り、過去最高を記録した。

今後、世界の光ファイバーネットワークは、インターネット市場の拡大に合わせて、イーサネット規格への移行が進んで行くものと見られ、映像コンテンツをサーバーで管理するシステムの導入加速と相まって、ファイルによる映像伝送は、ますます普及すると見られている。

## 5. 国際間の映像素材交換

NHKは、国際回線を使って、内外のニュース映像を海外の放送機関へ提供している。

このうち「アジアビジョン」は、NHKが中心となって、85年に立ち上げたもので、「ABU・アジア太平洋放送連合」に加盟する放送機関の間で、衛星を使って、毎日2回、ニュース映像を交換している。

08年度は、19の放送機関が参加し、7,000項目近いニュースを交換した。NHKは、年間およそ1,000項目のニュース映像を発信している。

アジアビジョンで毎日交換される映像は、ジュネーブのEBU（欧州放送連合）本部へも衛星で送られ、欧州域内の放送機関へも配信されている。

## V. ニュース

08年度は、日本内外で大きな事件やニュースが相次いだ。政局は福田総理の突然の辞任表明から麻生内閣発足へと大きく揺れ動き、解散・総選挙や政界再編をにらんで緊張が続いた。また、米国のサブプライムローン問題に端を發した金融危機が世界を席卷。「100年に一度」という危機的な状況が続き、日本でも深刻な不況に突入する気配が強まった。7月の北海道洞爺湖サミット、8月の北京オリンピック、11月の米大統領選挙など、ビッグイベントも相次ぎ、激動の1年であった。

### 1. 主なニュース番組

#### (1) 総合テレビ

平日の主な全中ニュースの流れは、以下のとおり。

『NHKニュース おはよう日本』は、午前4時30分から8時13分まで。ニュースやスポーツ、中継、気象情報、解説などを交えながら伝える。午前中はこのほか8時30分、10時、11時からそれぞれ5分間ずつニュースを放送。

『正午ニュース』は、全中は15分間で、その日の午前中のニュースをコンパクトに伝える。

『お元気ですか 日本列島』は、午後2時5分から2時55分まで放送。全国の放送局を結んで、生のニュースや地域の話、レポートなどを伝えている。

このほか午後は、3時から7分間、1時、2時、4時からそれぞれ5分間、全中ニュースを放送。

午後5時のニュースは08年度から首都圏放送センターが制作する『ゆうどきネットワーク』の放送開始が4時50分からとなり、ニュースを番組の一部として取り込みたいという要望があったことや5時前から放送が始まる民放を意識して放送を5分前倒して4時55分から10分間伝えることにした。6時は従来通り正時から10分間で、5時は2人の女性アナウンサーが1週間交代で、6時は正午ニュースのアナウンサーがそれぞれ担当。いずれも夕刊を意識して、その日のメインニュースも盛り込んだ構成にしている。

『NHKニュース7』は、午後7時からの30分間で、夜のメインニュースとして、キャスター解説や中継なども盛り込みながら、その日1日のニュースを視聴者の目線で、わかりやすく伝える。

『ニュースウオッチ9』は、午後9時から10時までの60分間。NHKのネットワークを生かした取材のほか、番組独自の視点での取材を加えて、多角的で“視聴者が納得できる”ニュース番組を目指して取り組んでいる。

#### (2) 教育テレビ

手話ニュースは、毎日伝える『NHK手話ニュース』と平日夜の『NHK手話ニュース845』、週1日の『週間手話ニュース』と『こども手話ウイークリー』の4本の定時番組を放送。

#### (3) BS1

『BSニュース』は、平日は毎正時から15分間、土・日・祝日は毎正時から10分間を基本に国内外のニュースをコンパクトにまとめて伝えている。

『BS列島ニュース』は、平日の午後1時15分から1時59分までの44分間で、全国各地のNHKの放送局がその日の昼に伝えたニュースや地域放送で伝えたりレポートをまとめて全国に発信している。

#### (4) ラジオニュース (R1・FM)

ラジオ第1のニュースは、30分毎（深夜～未明は1時間ごと）を基本に、国内外の動きをきめ細かく伝えた。午前7時・正午・午後7時・午後10時などは、それまでの主なニュースをせき止め、特に午後7時の『きょうのニュース』は、地域局

がリレー形式で伝える「列島リレーニュース」を含む1時間の枠で、インタビューなどの音声を多用しながら1日の出来事や話題をまとめた。また、午後10時からの『NHKジャーナル』では、記者や専門家の解説やインタビューを積極的に活用した。

「列島リレーニュース」は、午前8時台と午後1時台にも設け、ネットワークを生かして地域情報を全国発信した。深夜から早朝にかけての『ラジオ深夜便』では、比較的小さな出来事も速報し安心情報の提供に努めた。

大きな災害や事件などの緊急報道は、「安心ラジオ」の根幹であり、速報性・機動性などラジオの特性を生かして最優先で取り組んだ。07年度に放送に導入された「緊急地震速報」は、08年6月の岩手・宮城内陸地震をはじめ、08年度前半に頻繁に出され、いずれも合成音声で迅速に放送を開始し、詳細な地震関連情報につなげた。

福田総理大臣の突然の辞任やアメリカの黒人初の大統領となったオバマ氏を巡るニュースなど、内外の政治を巡る大きな動きをそのつど特設ニュースで詳細に伝えた。

一方、FM放送は、定時ニュースとして、朝・昼・夕・夜の4回、ラジオ第1のニュースを同時放送した。

## 2. 報道室

NHKの全国取材網には、各地の放送局のほか報道室がある。事件・事故・災害、選挙報道はもちろん、地域の暮らしに密着した取材の最前線として活動している。

〔北海道〕 世界的な金融危機による景気悪化の影響は、北海道では特に室蘭局・苫小牧報道室が担当する地域に顕著に現れた。苫小牧は、北海道が地域経済の新たなけん引役として自動車関連産業を積極的に誘致していたため、世界的な自動車販売の急激な不振で、地域経済の状況が一変した。

苫小牧報道室は、札幌局とも連携しながら、自動車部品メーカーの減産や、これに伴う「派遣切り」などの雇用問題、さらには税収の落ち込みによる自治体財政への影響などを取材して、『ニュースウォッチ9』や『クローズアップ現代』でも放送した。

09年1月28日、北方四島に支援物資を送る人道支援事業で、ロシア側が出入国カードへの記入を求めてきたことから、事業は5年目にして初めて中止になった。北方四島の元島民が暮らす地域を

担当している釧路局・根室報道室は、いち早く事業中止の事実をつかみ、全国ニュースで放送した。この問題は2月18日にロシア極東サハリンで初めて行われた日口首脳会談でも言及され、根室報道室は元島民の受け止めや、北方領土問題の解決への懸念などを分厚く伝えた。

08～09年の冬は、新千歳空港で吹雪などの悪天候による欠航が相次いだ。08年12月から09年2月までの欠航便は1000便を超え、前のシーズンを300便以上も上回る異常な事態となった。

新千歳空港を受け持つ札幌局・千歳報道室は、国内路線で最も利用者が多い羽田・新千歳便の欠航状況やその見通しなどについて、精力的に発信した。

〔東北〕 08年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震では、震源地に近い盛岡局・一関報道室の記者が、いち早く現場の取材に入り、住宅や道路などの被害の第一報を放送した。記者はその後も、被災者の心情に十分配慮をしながら継続的に取材を行い、被災地の課題などを伝え続けた。

08年7月6日に青森県大間町沖で民放の取材ヘリが墜落し、2人が死亡、2人が行方不明になった事故で、青森局・むつ報道室の記者は、いち早く現場に駆けつけて取材にあたり、目撃者の証言などを全国に向けて放送した。

08年11月13日、宮城県女川町にある女川原子力発電所1号機で火災が発生し、作業員1人がけがをした。女川町を管内に抱える仙台局・石巻報道室の記者は火災の第一報をいち早くつかみ、放射能漏れ等の影響がないことを確認した上で、現地入りして取材。火災の状況の詳細や原因、それに問題点等を、中継を交えて詳しく伝えた。

08年11月下旬、タイのバンコクでデモ隊が空港を占拠した影響で、現地を訪れていた福島県南相馬市の市長が帰国できなくなった。福島局・南相馬報道室の記者は関係者への取材で市長の所在を確認。国際電話で市長から直接、現地の様子や今後の対応などを聞き、放送で伝えた。

〔関東甲信越〕 08年4月、神奈川県横須賀市でタクシー運転手を殺害した米海軍横須賀基地の脱走兵が逮捕された。前月の事件発生から取材を続けてきた横浜局・横須賀報道室は、米軍当局や地元警察への取材を通じて逃走中の容疑者逮捕を迅速的確に報じた。9月、横須賀基地に原子力空母としては国内初の配備となる「ジョージ・ワシントン」が入港した。横須賀報道室は入港の模様を中継で放送するとともに配備の狙いや地元の不安を伝えた。12月、座間市の米陸軍キャンプ座間に

作戦司令部ができて1年となり、厚木報道室は、国内のメディアとして初めて司令部内のカメラ取材を行った。横須賀、厚木の両報道室は、米軍基地の取材を通じて、アメリカの極東戦略や基地機能強化に反発する住民の思いを追い続けている。

08年10月、茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構の小林誠・名誉教授がノーベル物理学賞を受賞した。水戸局・つくば報道室は、教授の日頃の仕事ぶりをはじめ、家族や同僚、市民の祝福の声を全国に発信した。

09年1月、関東でも景気と雇用情勢の悪化は一層深刻さを増した。ブラジル人労働者が多く住む群馬県太田市や大泉町では、いわゆる「派遣切り」で母国に帰国せざるを得ない人が続出。前橋局・両毛広域報道室は、定住の道を絶たれた家族の思いや経営難に陥ったブラジル人学校などに密着取材し、崩壊の危機に直面するブラジル人社会と未曾有の不況の断面を全国に発信した。

09年2月、浅間山で小規模な噴火が起き、火口から4キロの範囲で入山規制が行われた。長野局・小諸報道室は、噴火に先立って中継体制をとって警戒し、噴火後はすみやかに事態の詳細と行政の対応などを伝えた。住民に安心情報とともに注意を呼びかけた。

09年2月、成田空港に向かっていたノースウエスト機が千葉県上空で乱気流に巻き込まれ乗客乗員40人がケガをした。千葉局・成田報道室は、着陸後の救助の様や乗客の恐怖の証言を取材した。機長が事故の詳細を知らずに飛行を続け、情報伝達の遅れから救助が後手に回ったことなどを指摘した。3月には、成田空港でアメリカの民間貨物機が強風の中で着陸に失敗して炎上。乗員2人が死亡し、翌日まで120便が欠航するという開港以来最悪の事故が起きた。成田報道室は、発生から約10分後、『NHKニュース おはよう日本』の冒頭から一報を放送した。空港のロボットカメラは、激しくバウンドしながら燃え上がる機体をとらえ、映像は繰り返し伝えられた。当時「ウインドシアー」という風の急変を示す情報が事前に出ていたことなどを中継でレポートし、事故原因の究明につながる情報を刻々と報道した。

【中部】 金沢放送局・能登、輪島の両報道室は発生から2年を迎えた能登半島地震の現状や課題を取材し、悪化する景気の中で、仮設住宅で暮らす被災者の課題などを継続して伝えており、09年3月25日の被災2年当日には、ローカル特番の放送に貢献した。

08年7月、福井県敦賀市のイベント会場で大型

テントが吹き飛ばされて1人死亡、9人が重軽傷を負った事故で、福井放送局・嶺南報道室の記者はいち早く映像取材にあたり、名古屋局からヘリコプター取材の応援を得て、当日の『NHKニュース7』などで分厚く伝えた。原因は「ガストフロント」と呼ばれる現象が起きたと見られ、夏場の突風に対する警鐘を鳴らす報道となった。

また、嶺南報道室の記者は09年1月、95年のナトリウム漏れ事故から運転が停止している敦賀市の高速増殖炉「もんじゅ」の運転再開が予定されていた問題で、排気ダクトの補修工事などが必要になり、延期が決定されたことをいち早くつかみ、公式発表前に速報した。

08年12月末、景気の急速な悪化で契約を打ち切られ住まいを失った派遣労働者を支援しようと、NPO法人が富山県黒部市の研修施設を開放し、労働者の受け入れを始めた。富山放送局・魚津報道室の記者はこの情報をいち早くつかみ、他社に先駆けて報道した。派遣労働者への暖かい支援の動きは『NHKニュース7』のトップ項目で伝えられた。施設に訪れた男女7人のうち2人はNPOの仲介によって就職先を見つけ、記者はその後もこうした動きに密着して取材し、レポートなどで多角的に伝えた。

静岡放送局の浜松支局の取材エリアには、スズキやヤマハ発動機など全国有数の製造業が集積しているが、経済状況の悪化で派遣労働者が相次いで失業し、住まいを失うなど深刻な影響が出ている。浜松支局の記者は、培ってきた地元経済界の人脈を生かして企業の内側からの取材を進め、派遣労働者の雇用の背景や打ち切りの実態などを情報発信した。

また、浜松市は全国の市町村の中で日系ブラジル人が最も多く住んでいるが、浜松支局の記者は不況のあおりで日系ブラジル人の親が相次いで失業して子どもたちが学校をやめざるを得なくなっている現状をレポートするなど、地域の問題を深く掘り下げて放送につなげた。

【近畿】 原油価格の高騰や景気の悪化に伴い、関西空港では航空各社が次々と不採算路線の廃止に踏み切った。これを受けて大阪府の橋下知事が一時、競合する大阪空港を廃止する考えを打ち出すなど、大阪、関西、神戸の3空港のあり方が改めて議論になった。また、関西空港会社が抱える巨額の借金の軽減策や2期空港島の整備など、大阪局・関西空港報道室は、空港と地域が抱える課題を多角的に取材し発信した。

08年5月8日、舞鶴市の川沿いの雑木林で、地元の定時制高校1年・15歳の女子生徒が殺害されているのが見つかった。現場を抱える京都局・丹後舞鶴報道室は、現場周辺の徹底した地取り取材を続ける中で、近くの会社従業員が、事件直前に逮捕された容疑者の男と被害者が一緒に歩く姿を目撃していることをつかみ、単独インタビューを行った。

08年4月、兵庫県姫路市で全国名産のお菓子を集めた「姫路菓子博2008」が開かれた。会場には9つのパビリオンが設けられ、和菓子と洋菓子の職人がお菓子で作った実物の50分の1の大きさの姫路城と大名行列の展示や全国のお菓子の販売が行われ、5月までの期間中予想を大きく上回る92万人の入場者を記録した。姫路支局では姫路市の観光振興への取り組みとして、夕方のニュース番組で各パビリオンの紹介や職人たちのイベントにかける思いなどを連日ニュースやリポートで取り上げ全国放送へも展開した。

08年6月18日、世界遺産にも登録されている和歌山県田辺市の熊野古道で、道沿いにある牛馬童子像の頭部が壊され、なくなっていることがわかった。現場を抱える南紀新宮報道室の記者は、伝送手段のない初報の段階で現地から、携帯電話の写真とメールで一報映像を送るとともに、その後も市職員有志による、なくなった頭部の捜索や復元に向けた動きなどを追うとともに、柵などで囲わず、ありのあまを見てもらおう文化財の保護の難しさや、今後の取り組みなどについてリポートや記者解説で丹念に伝えた。

08年5月31日、奈良県明日香村で、高松塚古墳の国宝の壁画が、1972年の発見以来、初めて一般に公開された。飛鳥美人として知られる「女子群像」などが並べられ、訪れた人たちがガラス越しに見学。壁画は、修復のために運び出されていた。

09年3月20日、邪馬台国の有力な候補地とされる奈良県桜井市の纏向遺跡で、計画的に配置された建物群とみられる跡が、3世紀前半の遺跡としては初めて確認された。奈良局・奈良やまと路報道室では、報道局テレビニュース部と資料や情報の交換を緊密に行い想像図をCGで制作。考古学のニュースを視覚的にわかりやすく伝えた。

滋賀県彦根市では08年6月4日、江戸時代の彦根藩主で徳川幕府の大老井伊直弼が主導した日米修好通商条約締結150年を記念した2年間のイベントが始まった。10月25日には彦根市のマスコットキャラクター「ひこにゃん」をはじめ、最近ブームのご当地キャラクターを集めた「ゆるキャラ

まつり」が開催された。彦根報道室の記者は、全国的にもインパクトを与えた地域活性化の取り組みを丹念に伝えた。

**【中国】** 08年7月26日、鳥根県浜田港とロシアのウラジオストク港を結ぶ貨物船の定期航路の開設式が行われた。松江局・浜田報道室の記者は、「しまねフェア」が開かれたウラジオストクに海外出張し、ロシア貿易にかける地元企業の動きを追った。

食の安全・安心が問題となる中、下関のフグにも偽装が発覚した。08年7月29日、警察は、中国産フグを国内産と偽って販売していた会社を不正競争防止法違反の疑いで捜索した。下関支局が問題の会社を取材、社長は記者会見で自ら偽装にかかわっていたことを認めた。警察は、09年2月6日、この会社の元社長など4人を書類送検した。

景気の急速な悪化は、地方経済にも深刻な影響を与えた。岡山局・倉敷報道室は、三菱自動車工業の主力工場「水島製作所」や下請け会社を継続して取材した。08年11月27日には、派遣社員と期間従業員250人を年内に削減する方針を決めたことを先駆けて報じた。2月には、乗用車の製造ラインの操業が、月間わずか7日という異例の生産調整も行われた。こうした中、企業支援の動きも活発化。総社市では、三菱の新車の購入に10万円を助成することになり、3月2日、窓口に長い行列ができたことを全国ニュースでリポートした。

09年1月27日、鳥取県境港から漁に出ていたカニかご漁船「第38吉丸」が、日本海でロシア当局にだ捕され、漁船とともに乗組員10人がナホトカに連行された。米子支局は、境港の家族や会社関係者の取材を続けた。だ捕された漁船は、2月10日、2週間ぶりに境港に戻った。

海上自衛隊呉基地を担当する広島局・呉報道室。09年3月14日、アフリカ・ソマリア沖の海賊対策で海上警備行動が出されたことを受け、派遣部隊の第一陣となる護衛艦「さざなみ」と「さみだれ」の2隻が出港した。当日は、出港の様子を全国に発信。2隻には、およそ400人の隊員が乗り込んでおり、09年3月末から日本に関係する船舶を護衛する業務についている。

09年3月23日、山口県岩国市のアメリカ軍基地の周辺住民が、在日アメリカ軍の再編に伴う空母艦載機部隊の移転の差し止めを求める裁判を山口地方裁判所岩国支部に起こした。アメリカ軍の再編計画の是非を問う裁判は全国で初めてであり、岩国報道室の取材が続いている。

**【四国】** 08年4月20日、日本で初めてオリーブ



の本格的な栽培に成功して100周年を迎えた小豆島で、記念式典が開かれた。高松局では小豆島オリブ報道室を中心に、1年間にわたり繰り広げられたさまざまな地域活性化の取り組みを紹介した。

08年7月22日、徳島県阿南市の阿南東部土地改良区の元会計主任の女が、在職中に改良区の金を着服していた疑いで逮捕され、その後の調べで着服総額は7億2000万円に上ることが判明した。

徳島局は阿南報道室を拠点に、女や土地改良区関係者への取材を逮捕前から進めて女へのインタビューを行い、着服した金の使い道などについて全国に発信した。

08年10月1日、四国電力の伊方原発を管轄する八幡浜市の消防本部に原子力災害に対応する専門チームが発足した。専門チームは原発を抱える自治体の消防として初めてで、12月1日には原発の施設内で訓練も行われた。伊方原発では、10年2月から使用済み核燃料から取り出したプルトニウムを再利用するプルサーマルが実施される予定で、松山局では八幡浜報道室を中心に、プルサーマル取材に向けた準備を進めている。

09年2月7日深夜、高知県室戸市の漁港で約120キロ、密売価格にして120億円分の覚せい剤が見つかり、覚せい剤を運んだとみられる漁船の乗組員など中国人9人が逮捕された。高知局の室戸報道室は、現場の映像を翌朝の全国ニュースでいち早く伝えた。大がかりな密輸の背後にはどんな組織があるのか、高知局では室戸報道室を中心に継続取材している。

【九州・沖縄】 08年6月14日、大分県の教員採用汚職事件で、県の教育委員会幹部や現職の校長らが警察に逮捕された。教員の採用試験を巡って、県の教育委員会内部で、商品券などの贈答を伴った“口利き”が常態化し、不合格者の点数をかさ上げして合格させるなどの不正行為が繰り返されていた。不正の実態や背景、教育現場への影響などについて、3か月にわたり、連日、全国ニュースや番組で報じ続ける長い取材が始まった。

大分局・佐伯報道室は、校長が逮捕されて不在となった小学校が管轄内にあったため、取材の最前線のひとつになった。報道室を担当する記者は、事件報道が続く中、この小学校に密着して取材を続けた。実直で粘り強い取材は、教師や生徒たちの信頼を得て、報道機関としては唯一、学校内での映像取材を許されるまでになった。記者は、校長逮捕後の教育現場の苦悩や学校再建への取り組みなどを克明に記録し、事件の傷の深さと、そこ

から立ち直る姿を、全国ニュースなどで発信し続けている。

深刻な不況は、地域の経済にも大きな影響を与えた。鹿児島県では、09年2月28日、出水市にあるバイオニアのプラズマパネル工場が閉鎖された。600人の従業員のうち、530人余りが退職することになった。

鹿児島局・薩摩川内報道室は、08年5月に工場の閉鎖が発表されたあと、地域の経済や雇用への影響を取材し、継続的に報じ続けた。また結局見送られたものの、他企業による工場買収の動きなどの情報もいち早くつかんでニュースにつなげるなど、地域の人たちの関心に応えるための取材を続けた。

09年3月、水俣病を巡って、与党のプロジェクトチームは、新たな水俣病特別措置法案を国会に提出した。患者に対する一時金の支給に加えて、加害企業であるチッソについて、「被害者への補償をする会社」と「事業を継続する会社」に分社化することなどが盛り込まれた。これに対して被害者たちは、「被害者の切り捨てにつながる」「原因企業の責任があいまいになる」と反発した。

熊本局・水俣報道室は、これまでの蓄積や人脈を生かして、与党や国への情報取材、さらに法案の提出に対する地元の受け止めなどを取材し、法案の持つ意味や課題などについて報じた。公害の原点とも言われる水俣病は、公式確認から52年経ったいまも解決せず、公害との長い闘いを見つめる取材が続いている。

### 3. 海外総支局

09年3月31日現在、NHKは26の海外総支局に69人の特派員を配置している。

このうちバンコクは、アジア・オセアニア、北京は中国全域、パリは欧州・中東・アフリカ、そしてニューヨークは南北アメリカ大陸を、それぞれ総括している。

このほかイラク・バグダッドとロシア・サハリンの2か所にも事務所を置き、バグダッドには欧州管内や東京から、またサハリンには北海道管内から交代で取材陣が常駐している。

中でもバグダッド事務所は、イラク戦争から6年を迎え、治安の回復傾向が見られ始めたとはいえないお不安定なイラク情勢を、現地に唯一常駐している日本のメディアとして、克明に記録し続けている。

拠点の設置が認められず、取材活動が極めて厳しく制限されている地域でも、さまざまな手法を

動員して放送に結びつけている。09年5月、ミャンマーでは現地の契約スタッフ（ストリンガー）が、独自に取材した映像をネットで伝送し、サイクロン被害の生々しい様子を迅速に放送することができた。

同じく5月、中国・四川省の大地震では、当局に粘り強く交渉した結果、中国内のニュース取材では初めて、NHK自前の衛星伝送装置の使用が許可され、ビデオフォンなどでは表現しきれない鮮明な画像で、現地からの生中継も含め被害の実態を放送し続けることができた。

08年末から、09年の年明けにかけてパレスチナ暫定自治区のガザ地区にイスラエルが空爆と地上軍を投入した際には、地元スタッフが、いち早く現地入りした特派員とともに緊迫の中東情勢報道を支えた。この現地スタッフたちはイスラエルによる攻撃で家を失いながらも使命感あふれる取材を続けた。

一方、09年2月からの国際放送の拡充に合わせ、とりわけアジアを重視したニュース発信に取り組んでいる。バンコクはじめ各総支局では、英語による特派員リポートに力を入れ、NHKの海外発信力の強化にも一役買っている。

このようにNHKは、日本のメディアの中でも最大規模の海外ネットワークを生かし、グローバル化が進む中、正確で深みのある情報を迅速に国内外に送り続けている。

#### NHKの海外総支局（09年3月31日現在）

4 総局：アジア（バンコク）、中国（北京）、ヨーロッパ（パリ）、アメリカ（ニューヨーク）

22支局：マニラ、ジャカルタ、ハノイ、クアラルンプール、ニューデリー、イスラマバード、シドニー、ソウル、上海、広州、台北、ロンドン、ベルリン、ブリュッセル、カイロ、エルサレム、テヘラン、モスクワ、ウラジオストク、ワシントン、ロサンゼルス、サン・パウロ

以上、26総支局に記者、制作記者、ディレクター、カメラマン、アナウンサー、技術、経理合わせて69人の特派員を配置。

さらに総支局とは別に、サハリン、バグダッドに計3人が交代で出張している。

## VI. 気象情報

08年度の総合テレビの気象情報は、平日で、1

日33回、放送時間はあわせて約1時間20分となっている。このうち気象キャスターが伝える気象情報は、『NHKニュース おはよう日本』から『きょうのニュース&スポーツ』まで1日に23回に及ぶ。気象情報に対する視聴者の関心は、非常に高くなっているうえ、天気予報だけではなく、気象に関連した生活情報などもますます求められるようになっている。こうした中、08年度は気象キャスターによる解説の充実をはかり、その日の気象のポイントや、生活に密着した気象情報をよりわかりやすく伝えるべく、新たな気象マークの導入や気象画面のくふうを重ねた。

08年は台風の上陸はなかったものの、短い時間に局地的に降る大雨が相次ぎ、各地に被害をもたらした。局地的な大雨は、いつどこで降るのかを予測するのが難しく、気象情報の中では、防災・減災の視点に立ち、視聴者に対して、きめ細かく注意を呼びかけることが求められた。

### 1. 局地的な大雨と気象情報

東海と関東を中心に被害をもたらした「2008年8月末豪雨」をはじめ、08年夏は各地で局地的な大雨が相次いだ。太平洋高気圧の張り出しが弱く、湿った空気が次々に流れ込んで全国的に大気的不安定な状態が続いたことが、その要因とみられる。豪雨を降らせた積乱雲は、短時間で急速に発達するのが特徴で、気象庁では、「どこで発達するかを事前に予測するのは今の技術では難しい」としている。

このため、気象情報では、気象会社の落雷情報を活用するとともに、局地的な大雨をもたらすおそれのある前兆や雲の様子などについて、気象キャスターがイラストなどを用いながら繰り返し解説し、注意の喚起に努めた。

### 2. 被災地への気象情報発信の強化

08年6月に起きた岩手・宮城内陸地震。梅雨期の地震だっただけに、被災地では雨による土砂災害などの2次災害も心配された。このため、気象情報では、およそ1週間にわたって、被災地の天気や気温の予報について、ポイント予報の画面を使って、きめ細かく伝えるとともに、気象キャスターが、気象状況から読み取れる注意・警戒点や生活情報を解説した。

### 3. きめ細かい防災情報への対応

土砂災害が発生する危険が高まったときに、気象台と都道府県が出す「土砂災害警戒情報」は、

07年度末までに全都道府県で運用が開始された。NHKでは、08年度からスーパーの自動作画システムを導入。「土砂災害警戒情報」が発表された際に、より迅速に伝えられるよう整備した。

気象庁は、気象警報・注意報を10年度には市町村単位で発表する予定。大量に配信される情報を、視聴者にわかりやすく伝えるために検討会を設け、本格的な準備を進めている。

#### 4. 気象画面の充実

災害をもたらしたり、市民生活に影響を与えたりするおそれのある気象現象を、わかりやすく伝えるために新たな気象マークを導入した。

低気圧は、発達すると強い雨や風、雷をもたらす。低気圧の画面上の表示は、これまでは、「低」という文字の静止画のみだったが、新たに渦を巻く動画を取り入れ、急速に発達する低気圧がわかるようにくふう。注意喚起に活用している。

07年の記録的猛暑を受け、08年には新しく猛暑のマークも制作した。太陽と「猛暑」の文字を組み合わせたうえで、めらめらと動くようにして、暑さを視覚的に強調した。また、首都圏の放送では、「熱中症予報」のイラストも修正し、夏場、熱中症に対する注意の呼びかけを強めた。

このほか、冬場に山間部での吹雪を表示するマークも作るなど、気象画面の充実を図った。

また、各地の今の表情をもっと伝えようと『NHKニュース おはよう日本』の7時台の気象情報の冒頭でも各地のロボットカメラの活用を始めた。その日の気象のポイントとなる地点を選び、毎朝、気象キャスターが解説にあたっている。

## Ⅶ. スポーツ

08年度のスポーツ放送時間量（ニュース・情報番組は含まず）は総計5,722時間を越え、テレビ5波とR1を合計した総放送時間の11.3%に達した。特にBS1は31.6%、HVでは12.3%を占めている。

### 1. 北京オリンピック

大会は8月8～24日の17日間にわたり史上最多204の国と地域から1万人を超える選手が参加して28競技302種目で熱戦が繰り広げられた。日本選手団は、26個のメダルを獲得する健闘を見せた。

日本との時差が1時間のため注目競技が夜間に集中。総合テレビでは、柔軟な編成で競技の生放送、五輪速報などを中心に伝え、開会式37.3%、ソフトボール決勝30.6%など連日、高い視聴率を

記録した。

また今大会は、国際信号が、NHKが推進・提唱してきたハイビジョンによって初めて全競技が制作され、地上デジタル放送を中心に高画質で競技の様態を伝えた。ハイビジョンの独自制作がなくなったため、衛星ハイビジョンの放送時間は減ったものの、全波合わせて総放送時間は777時間18分に達した。

〈北京パラリンピック〉

9月6～17日に開催されたパラリンピックは、オリンピックに出場した選手も出場するなどこれまでに比べ、競技性が高まった大会となった。日本選手団は27個のメダルを獲得した。

その日の結果をいち早く伝えるため、連日22時台に教育テレビでハイライト番組『北京パラリンピック』を放送した。この番組は視覚障害者向けに解説放送を行ったほか、総合テレビでの再放送では聴覚障害者サービスとして、字幕放送を実施した。

また、国枝慎吾選手が優勝した車いすテニス男子シングルス決勝を初の試みとしてBS1で録画放送した。

パラリンピックの放送時間は3波合わせて計42時間50分に及んだ。

### 2. プロ野球

レギュラーシーズン125試合、セ・パ両リーグのプレーオフ12試合、日本シリーズ3試合の合計140試合を放送した。

波別では総合テレビ14試合、HV32試合、BS1は94試合である。

西武と巨人の対戦となった日本シリーズは第7戦までもつれ込む熱戦となったが、西武の日本一の瞬間を含め、日本一決定に至るいわゆる胴上げ試合を6試合放送することができた。

演出面では「途中から見てもゲーム展開がわかる中継放送」をモットーに、試合のハイライトVTRの回数を増やし、視聴者のニーズに応えた。またハイスピードカメラを効果的に使って、選手の高度なプレーや表情をさまざまな角度から伝えた。

### 3. サッカー

〈Jリーグ〉

07年にJリーグの編成が大きく変わってから2シーズン目。BS1での放送は毎節1試合で、NHKのカード選択の優先順位は、スカパー（CS）に次ぐ2番目であった。

3月8日の開幕から12月6日の最終節まで合計34試合を厳選して放送。また、J1とJ2の入れ替え戦2試合は、BS録画と当該チームの地元ローカル局の地上波で放送した。総合テレビでは、開幕や優勝争いを中心に9試合を放送、鹿島アントラーズの優勝を伝えた。また、NHK地方局によるローカル放送では、60試合を放送した。

〈天皇杯〉

天皇杯全日本サッカー選手権大会は、都道府県の代表決定戦を各地の地域放送局でローカル放送を実施。本大会の3回戦以降の16試合をBS1で、そのうち準決勝と決勝の3試合は、総合テレビとR1でも放送した。

〈アジア最終予選ほか〉

2010年W杯のアジア最終予選ではホーム、アウエーの日本戦5試合を生中継、また、そのほかの試合も録画や生中継で10試合ほど放送した。

日本代表戦5試合はいずれも高い視聴率を記録し、オーストラリア戦はBS1での放送にもかかわらず、4%の数字をあげた。アジアのクラブチームナンバーワンを決めるアジアチャンピオンズリーグでは、2007年の浦和レッズに続いてガンバ大阪が優勝、日本勢としての連覇を果たした。その戦いの模様も14試合をBS1で録画放送した。

〈プレミアリーグ〉

世界最高峰のサッカーリーグと言われる、イングランド・プレミアリーグの放送を2007年度に引き続き各節3試合放送した。中継以外にも5月には07-08シーズンを振り返る「総集編」を、2月には08-09シーズンの前半戦をまとめた特集番組を放送した。

## 4. 大相撲

年間6場所90日にわたる大相撲の熱戦を余すことなく伝えた。総合テレビ、BS2、R1で放送。副音声には英語放送を実施。総合テレビでは生字幕放送も行い、幅広い世代の要望に応えた。

またハイライト番組の『大相撲幕内の全取組』は生放送を視聴できない方々から好評を得ている。

2008年の大相撲は、1月と3月場所は両横綱の2場所連続となる優勝決定戦、5月は大関琴欧洲が初優勝するなど大きな注目を集めた。その一方で、現役力士が大関所持で逮捕される事件が発覚。その後の対応のまずさもあって、ついに理事長交代という結果を招くことになった。大相撲中継でもこの前代未聞の不祥事をさまざまな角度から取り上げ、視聴者のニーズに応えた。今後も土俵の

内外で起こる相撲界のさまざまな事象に柔軟に対応していく。

## 5. 大リーグ

2008年シーズンは、レギュラーシーズン207試合、ポストシーズン27試合の合わせて234試合を放送。レギュラーシーズンでは松坂大輔、岡島秀樹両投手のレッドソックス、松井秀喜選手のヤンキース、イチロー、城島健司選手のマリナーズのカードを中心に放送した。また、ポストシーズンでは、松坂・岡島投手のレッドソックスと岩村明憲選手のレイズの対戦となったア・リーグ優勝決定戦でNHK独自の映像を加えて伝えた。岩村の活躍でレイズがワールドシリーズに進出。NHKでは、シリーズ全試合をBS1で生中継したほか、総合テレビでも毎試合30分のハイライト番組を放送した。

## 6. その他

北京五輪代表選考会の放送を行った。例年放送している水泳、柔道、体操、陸上に加え、ホッケーとハンドボールの五輪最終予選の模様を新たに中継した。

特に、水泳と陸上については、夜の視聴好適時間帯に放送、「その場で五輪出場が決まる」ナマ中継ならではの臨場感を茶の間に届けた。

いわゆる「中東の笛」で注目を集めた男子ハンドボールは、5月から6月にかけてクロアチアで行われた五輪最終予選をBS1で放送した。

また3月にチェコで行われた世界ノルディックスキー選手権で日本の複合団体が14年ぶりに金メダルを獲得、ジャンプ団体の銅メダルとともに、その模様をBS1で伝えた。